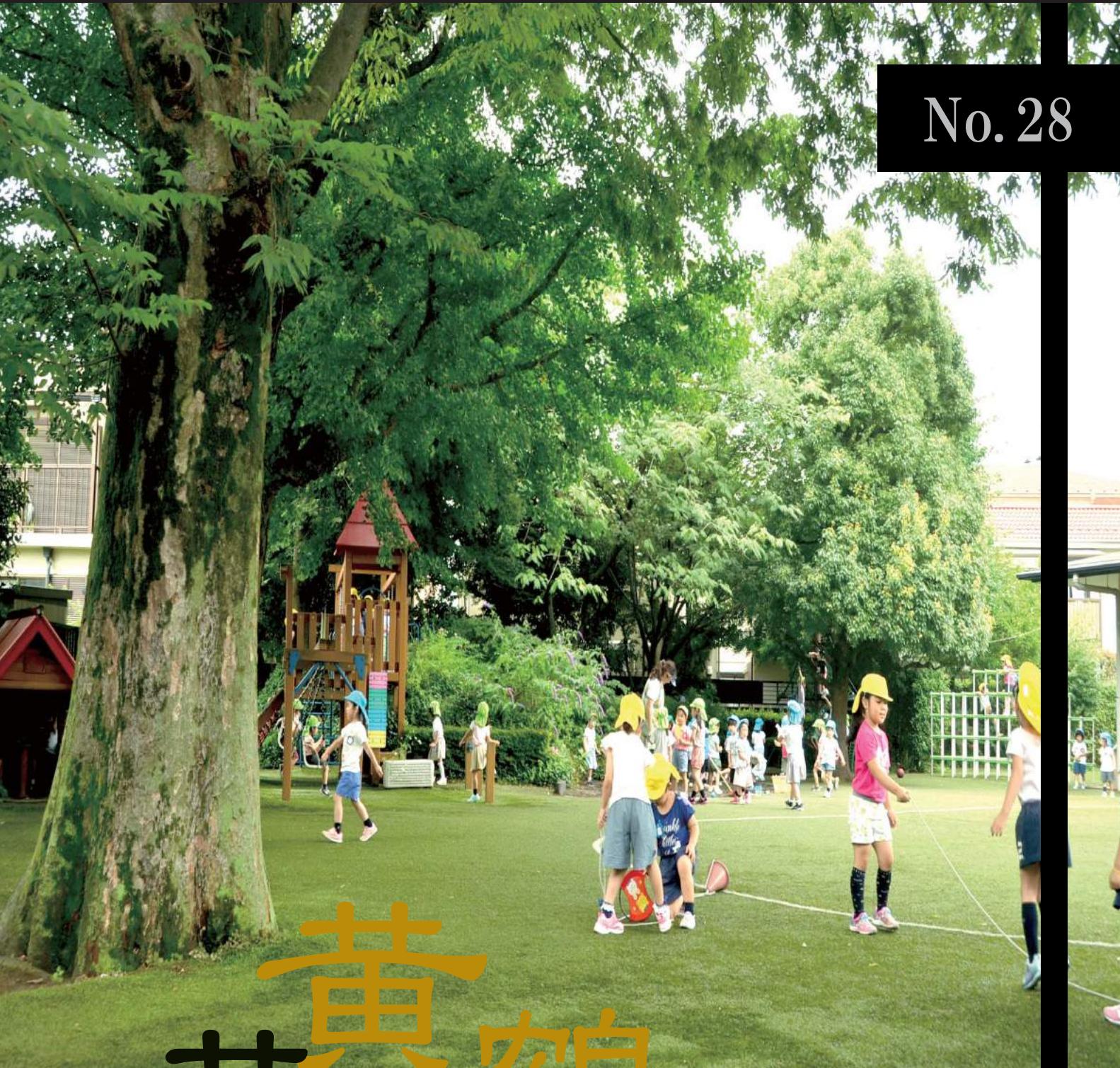


No. 28



黄鶴雀



学校法人 川村学園



国際英語学科の 「アクティブ・ラーニング」



通訳ガイド実習：イタリア人のご一家と

国際英語学科では、さまざまな状況で英語を使う「アクティブ・ラーニング」を重視しています。「国際コミュニケーション演習(3)」（通訳入門）では、明治神宮で外国人観光客に声をかけてガイドさせてもらう「通訳ガイド実習」を行います。明治神宮の歴史や見どころを英語で説明するため入念に準備します。キャンパスを離れた活動の中で英会話の経験を重ねていく場は、単に英語力をつけるのみならず、異文化間コミュニケーションを体験する機会としてもたいへん貴重なものとなっています。



通訳ガイド実習：外国人観光客に呼びかけ



通訳ガイド体験：浅草寺にて



英語パフォーマンス：靴屋の飼い犬と小人たちのダンス



通訳ガイド体験：1、2年次の必修科目「EIA I」と「EIA II」では、学生たちが「通訳ガイド」として外国人の先生たちを案内して都内の観光地を訪れます。（日の出桜橋にて）

英語パフォーマンス：W・キスチャック先生のゼミでは英語ミュージカルの上演を行います。昨年度の作品はグリム童話をもとにした *The Elves and the Shoemaker* でした

野菜も心も大きく育つ、 0歳児から楽しむ畑づくり!



お野菜さんにありがとう

毎年5月には保育園の広大な敷地にある畑を耕
し、野菜の苗植えが始まります。

今年はナス・キュウリ・オクラ・ミニトマトなど9
種もの野菜を幼児組が毎日世話をしています。1・
2歳児は少しずつ実っていく野菜を、ワクワクしな
がら見に行くのが日課になつており「これはナスの
花だよ」などと優しく教えてくれるお兄さんお姉さ
ん達のおかげで、野菜への関心がより広がっています。

葉に隠れて気付かれずに大きくなってしまった
キュウリは、0歳児のおもちゃに変身！ ちょっと
不思議な感触を楽しんでいます。自然の恵みを通じ
て食べ物の大切さ、「ありがとう」の心が0歳のうち
から育っている保育園です。



食育～はじめの一歩～



手洗いうがいをし、机をふいて、
どのクラスも子ども達が
進んで準備を始めます



配膳が終わるまで、目を閉じ、
両手を合わせて、心を落ち着かせます



「お父様、お母様、いただきます」と
ごあいさつをして食べ始めます



「♪起~きましょう、起~きましょう…」とその日のお当番さんが声をかけると、
元気よく「はーい！」とお返事



全部食べられることの喜びや嬉しさが、
食べる意欲へつながるよう
対応していきます



おいしく たのしく みんなで食べる



川村幼稚園では、3歳になつた翌日から入園してくる子から、6歳になつて卒園するまでの幼児をお預かりしています。この時期は、自分で生活をしていく、そして健康な体の土台を形成する第一歩なのです。そこで、食習慣を身につけることが大切な課題となります。

「早寝早起き」に始まり、生活態度・健康観なども自然と身についていく幼児期、その中心となる食生活を次のように捉え、毎日の給食指導を行っています。まず、朝・昼・夕、三度の食事で、排泄をも意識した生活のリズムを作ること、次に、体に必要な栄養を十分に摂るために、好き嫌いを少なくしてバランスの良い食事をとること、そして、一番大切にしているのは、みんなで楽しく給食を食べる雰囲気を作ることです。園生活を修了するまでに、箸などを上手に使いこなし、小学校の会食につなげることが大きな目標です。



自ら考え、友達と話し合う過程が新しいものを生み出す力を育みます

2年生が、1年生や幼稚園の年長さんを招待する縁日遊びは、生活科として行われます。身近な材料を使ってゲームを作り、その面白さに気付くこと、ゲームを工夫しより良い物を完成させることを目標としています。そのためには、話し合いの活動が大切で、子ども達は友達の意見を尊重しながら、自分の意見を反映させていくことを学びます。うまくいかない時には、すねたり、泣いたりすることもありますが、この過程を通して、思ひ出が印象的でした。



色々な遊びを
楽しみました



心を動かす質の高い豊かな体験が自分自身の成長につながります

子ども達が協力しあって自分を高めていく行事の集大成として、鶴友祭があげられます。特に高学年は、自分達が楽しむだけでなく、低学年の児童や来てくださる園児のことも考えながら企画を練りあげます。これまでに、工作・実験教室やお化け屋敷、駄菓子の販売をする縁日などをしました。どのようにしたらよりよくできるか、より楽しくもらえるかを協力しながら準備をしました。



来場者が自由に参加できる「モザイク壁画」（平成30年度）





私の思いを言葉に乗せて 読んでくれる人へ 聞いてくれる人へ みんなへ なるべくわかりやすく ていねいに つたえたい



自分の文章を声に出して読み上げ、添削された文章を振り返りました

川村中学校では、3年生のカリキュラムに「論文演習」を導入しました。テーマに基づき、自分の主張を明確に文章で述べ、表します。言語力を要します。

推敲・添削を経てさらに振り返り、記述する力を磨きます。

そして、文章に書くだけでなく、読み上げ合い、お互いに伝え、評価し合います。

考え方を共有し、新たな視点や友人の魅力にも気づく、楽しい時間です。

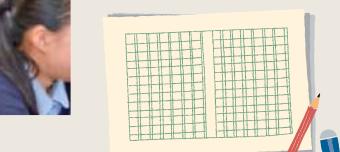


お互いに発表を聞き、同じテーマでも様々な価値観や捉え方、主張があると知りました



発表が終わると、大きな拍手が送られました

これからも表現する力、
話す力を高めたいという
生徒の思いを尊重します



各クラスで行ったオーディションの様子



NHK杯全国中学校放送コンテストに参加した生徒。頑張りました！

- ◆出場した生徒の感想
- ・自分なりに心を込めて朗読しても、伝わり方が違うことがあると知った。
- ・intonationが気になり、テレビのニュースでアナウンサーに注目するようになった。
- ・高校生になってからも参加したい。
- ・言葉は、書くだけでなく、声に出してどう伝えるかということも大事だと気づいた。

また、「令和元年初夏、朗読をしようと！」という言葉のもと、NHK杯全国中学校放送コンテスト朗読部門に参加しました。それぞろそんの練習を重ね、努力していました。



アクティブ・ラーニングを通して自分たちと世界とのつながりを実感し、国際理解を深める



国連開発計画（UNDP）駐日代表事務所



UNDP駐日代表・近藤哲生氏



国連大学ライブラリー



ウ・タント国際会議場



日頃聞くことのできない内容に生徒たちは熱心にメモを取り真剣に耳を傾けていました

「政治・経済」の授業を選択している高校3年生16名が国連大学にある国連開発計画（UNDP）駐日代表事務所を訪問し、質疑応答および施設見学を行いました。UNDPは貧困の根絶や不平等の是正、持続可能な開発を促進する国連の主要な開発支援機関であり、近藤哲生代表からのレクチャーを受けた生徒たちは世界の開発課題解決の現状について理解を深めることができました。

高校生は夏休みを利用してオープンキャンパスへ出かけます。各学年からの進路指導を参考に自分の学ぶ目的に応じて見学を行いました。模擬授業やキャンパスツアー、在学生との質疑応答を通し、各大学の魅力や自らの将来に真剣に向き合った機会となりました。

夢の実現を目指して、 早めのスタート！ 自己理解と情報収集は 希望を叶える第一歩



ガイダンスでは、最新の進路情報を提供するほか、学習の取り組みや進路に対する意識向上を図ります

Study Support Centerの開室



受付カウンター周辺から廊下の壁に至るまで、進路に関する様々な情報が掲示されています。奥のブースでは、個別に質問することもできます

新しい放課後学習システムとしてStudy Support Centerを開室しました。家庭学習の学校内完結、自学自習習慣の確立、第一志望校への現役合格力の育成を目的として、中学生1年生から高校3年生まで多くの生徒が登録し、活用しています。



一人ひとりの学習計画に合わせ、専用ブースで個別指導を受けることもできます





学校法人 川村学園

〒171-0031 東京都豊島区目白 2-22-3 TEL 03-3984-8321
<http://www.kawamura.ac.jp/>

黄鶴 第28号 (年一回発行)
令和元年 10月19日 発行
学校法人 川村学園

総合デザイン
黄鶴編集委員会
佐々木匠